

# 病害虫発生予察注意報第1号

## (平成24年6月13日)

### 病害虫名 果樹カメムシ類

(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

1 発生作物 果樹全般（もも、うめ、かき等）

2 発生地域 大阪府全域

### 3 発生の状況

本年は全国的に越冬成虫が多いという情報があり、注意を呼びかけていたが、府内でも5月末から6月初めになって、フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺虫数が増え、平成19～23年の平均値の3～10倍程度となっている。

現在果実肥大期のももを中心に大きな被害を受ける可能性がある。

羽曳野市、岸和田市に設置したフェロモントラップによる誘殺数は、下表のとおりである。

河内長野市のもも園に設置したフェロモントラップでも、多数の誘殺が確認されている。

カメムシ類種類	羽曳野市 期間(5/30～6/5)	岸和田市 期間(6/1～7)
チャバネアオカメムシ	56頭(6.8頭)	72頭(8.2頭)
ツヤアオカメムシ	17頭(5頭)	2頭(0.2頭)
クサギカメムシ	1頭(1頭)	1頭(0.2頭)

( )内は平成19～23年の平均値

### 4 果樹カメムシ類の生態

(1) 主な増殖場所は、スギやヒノキ等の山林で、餌となる球果が不足すると果樹園に飛来し、果樹の果実を吸汁して落果や奇形果等の被害が発生する。

(2) もも、うめなどの核果類や、なし、かき等が食害を受けやすい。多発するとかんきつ類やぶどうにも被害が及ぶ恐れがある。

(3) 果実袋を使用した場合でも、果実の肥大に伴って果実袋と果実が密着すると、袋の上から吸汁されることもある。

(4) チャバネアオカメムシの雄は集合フェロモンを放出し、同種の個体を誘引するため、特定の果樹園に一夜にして多数飛来することがある。

## 5 防除対策

(1) カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、発生を確認したら速やかに薬剤散布を行う

散布薬剤の例

○もも

・アトマイヤー顆粒水和剤 (10,000 倍 3 日/2 回)

・アディオオン乳剤 (2,000 倍 7 日/6 回)

・モスピラン顆粒水溶剤 (2,000~4,000 倍 前日/3 回)

(2) 成虫の移動能力は高く、次々と飛来するため、こまめな防除が必要となる。

(3) 収穫期近くでも防除が必要となるため、薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に充分注意する。

(4) 樹高の高い樹に散布する場合は、周囲に飛散しやすいので、薬剤を散布する時、特に注意する。